

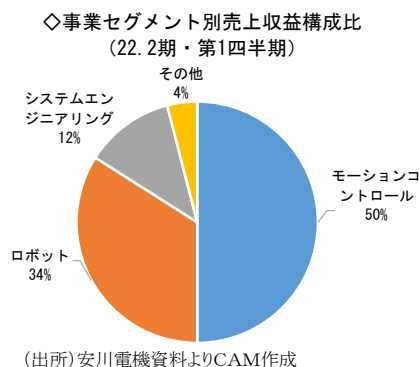
企業ニュース 安川電機

(東証1部：6506) <https://www.yaskawa.co.jp/>

作成者：奥村義弘

サーボ、インバータ、ロボットを軸に事業展開

1915年設立。「モーション制御」「ロボット技術」「パワー変換」をコア技術とし、サーボ、インバータ、ロボットなどを使ったソリューションを展開する。2017年に、新しいソリューションコンセプト「i³-Mechatronics (アイキューブメカトロニクス)」を始動させた。「i³ (アイキューブ)」は、integrated(統合的)、intelligent(知能的)、innovative(革新的)の3つの「i」を意味する。データ活用による生産性の向上、高い品質の確保・維持、AIを活用した機械・設備の故障予知等による止まらないラインの実現といった、デジタルデータソリューションを提供する。仕向け先別売上収益構成比(22.2期・第1四半期)は国内30%、米州14%、欧州14%、中国31%、中国除くアジア11%。



モーションコントロール、ロボットを中心に想定以上に高水準な需要

22.2期・第1四半期(3-5月)の連結業績は売上収益が1,190億円、前年同期比31%増、営業利益が129億円、同108%増。モーションコントロールは、同36%増収、営業利益が110億円、同68%増。ACサーボが中国における5GやEV関連の需要拡大に加え、半導体・電子部品需要がグローバルで旺盛。インバータが欧米での市況回復や中国でのインフラや環境関連の投資で伸長した。ロボットは、同39%増収、営業利益が21億円、同688%増。自動車市場の設備投資が回復、一般産業分野では生産の高度化・自動化を目的とした投資が活発化、半導体ロボットの販売も堅調に推移した。システムエンジニアリングは、同15%増収、営業利益は6億円、同579%増。上下水道用電気システム関連および欧州の大型風力発電用電機品の売上が回復基調となった。

22.2期の会社計画は売上収益が4,600億円、前期比18%増、営業利益が540億円、同99%増。期初見通しを売上収益で300億円、営業利益で120億円上方修正した。第1四半期の受注は、モーションコントロール、ロボットを中心に想定以上に高水準であった。一部に在庫の積み増しなど先行的な受注もあるが、7月以降は正常化を前提とする計画。

[株価動向・投資判断]

株価には第2四半期以降の受注急失速への懸念が反映されているようだ。しかし、グローバルでの旺盛な需要が継続しており失速リスクは小さい。業績拡大への期待は維持されよう。

<6506 安川電 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.2	410,957 (▲13)	24,198 (▲54)	24,642 (▲55)	15,572 (▲63)	59.4	52.00
21.2	389,712 (▲5)	27,180 (▲12)	27,172 (▲10)	18,927 (▲22)	72.4	24.00
22.2 予	460,000 (▲18)	54,000 (▲99)	55,500 (▲104)	41,000 (▲117)	156.8	52.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2021/7/21)	5,260 円
年初来高値(高値日)	6,080 円(21/2/16)
同 安値(安値日)	4,675 円(21/5/13)
予想P E R(22.2予)	33.5 倍
1株株主資本(PBR算出用)	997.1 円
P B R	5.28 倍
予想配当利回り	0.99 %
(1株当たり配当金52.00円)	
R O E(21.2)	8.0 %
発行済み株式数	26,669 万株